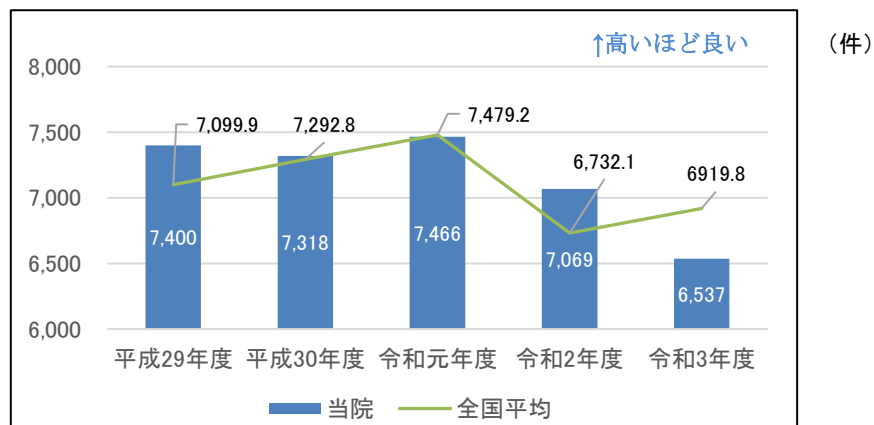


2 手術室内での手術件数

○項目の解説

国立大学附属病院は高度急性期・急性期の要です。外科手術の提供だけでなく、その技術の普及を図ることは、診療と教育という国立大学附属病院の社会的責任を果たすこととなります。外科医、麻酔科医、看護師などの医療チームが手術室を効率的に活用し、どれだけの手術に対応することができるかを表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

本院は、病床数600床レベルの国立大学病院の中で上位の手術件数を維持しており、多くの手術を行っているのが特徴です。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、入院制限・手術制限を行ったため、手術件数は昨年より減少しました。全体の手術件数は減少しましたが、緊急手術の受入体制は維持し、旭川周辺の関連病院から依頼のあった臨時手術はコロナ前と同様に対応することができました。PCR検査は入院時に全例施行し、新型コロナウイルス感染症に対しても安全に手術を受けて頂けるように対応しています。

他部署間・各職種間と連携し、曜日による手術枠の調整、手術準備時間の短縮、物品準備操作の効率化などを見直しながら臨時手術に対応し、手術室の安全管理を行っています。医師や看護師、臨床工学技士の負担軽減の為、医療材料・機材の準備や手術機器の後片付けなど周辺業務を、外注職員の活用で効率的に運用しています。また、手術部患者情報管理システム・手術部物品搬送システム・手術部物品管理システムなどのIT化が効率的な手術部運営の一助となっています。さらに、Hybrid（ハイブリット）手術室でのTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）、血管外科手術、ロボット支援システムによる泌尿器科・消化管外科・呼吸器外科・婦人科手術、高解像度の8Kモニタでの腹腔鏡手術など最新の医療も安定して提供することができています。

○定義

DPC データを元に算出した、手術室で行われた手術（医科診療報酬点数表2章第10部手術に記載された項目（輸血、内視鏡的処置、血管への経皮的処置等を除く）の件数です。

ただし複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件とします。

○算式

実数